

学びのポイント

①

専門かつ学際的な幅広い視点

人間科学専攻の中に、各専門分野を位置づけることで、高度な専門教育を行うとともに、各分野が互いに連携することで学際的で幅広い視点を養うことができます。最先端の研究、地域と連携した研究が活発に行われています。

②

社会・地域の問題解決を担う人材の育成

専門知識の修得の他、インターンシップ制度、サイエンス・アウトリーチ活動、心理相談室など学内外での心理実習などを通じて実践的な科学の精神を培い、地域社会の中で自立的に問題を解決することのできる女性科学者を養成します。

③

公認心理師養成大学院

厚労省・文科省が認定する心理支援職(カウンセラー)の国家資格です。2017年度に心理学系の学部・学科に在籍し(1~4回生)、科目読み替えて公認心理師養成のための科目と同等の内容を修得したとみなされる者は、本大学院等に進学し、修了すれば、受験資格が得られます。2018年度学部入学生からは学部で指定の科目の単位を取った者が、公認心理師資格の対象となります。

④

臨床心理士養成大学院第1種指定校

日本臨床心理士資格認定協会より、臨床心理士養成のための第1種指定大学院に指定されています。また、教員の指導の元、一般の方々の心理相談も行っており、多様な臨床活動を体験することができます。

⑤

理科教員専修免許を取得可能

理科教員として教育の分野で活躍することもできます。中学校理科または高等学校理科の専修免許状を取得することができます。

※一種普通免許状を既に取得している必要があります

文部科学省採択プログラムに基づく本学独自の教育システムを展開

産業界をはじめ社会のさまざまな分野で幅広く活躍する高度な人材を養成するため、大学院における優れた組織的・体系的な教育プログラムを文部科学省が支援する取り組み。本校においては下記の2つが採択され、現在も下記をベースにした本学独自の教育プログラムを展開しています。

地域実践活動を創造できる臨床心理士の養成

臨床心理学分野

臨床心理士養成のための第1種指定大学院に2002年に認可され、多くの修了生が臨床心理士として教育・福祉・医療等の現場で活躍しています。2007年度に文部科学省より大学院教育支援プログラムに採択されたのを機に、アウトリーチ活動や子育て支援プログラムなど心理相談室の地域実践活動をカリキュラムに運動、個別の心理相談に加えて多様な臨床活動の創造・実践を学べます。



環境と健康のために行動する女性科学者養成

人間行動学分野 環境科学分野 健康科学分野

持続可能な開発のための教育の専門家や食の安心と健康を守るサイエンス・コミュニケーターなど、科学と社会をつなぐ役割を果たす女性科学者の育成をめざした教育プログラム(2009年度採択)。この理念を継承してアウトリーチ活動、大学院セミナーなどを行っています。



就職・進路

専門家としての原点を学んだ2年間



陸上自衛隊
Y・Kさん
2017年 人間科学研究科 修士(人間科学) 取得

大学院では、講義を受けたり研究するだけでなく、同期や先輩や後輩、先生と意見を交わしているいろいろな考え方に接しながら自分の考えを磨いていく機会が沢山ありました。それにより、どんな場所で働くことになっても活かすことができる専門家としての基礎と思考力、目の前の人に寄り添う姿勢を学ばせていただいたと思います。わたしは今、陸上自衛隊の臨床心理士として勤務しています(自衛官としてではなく専門職の職員として働いています)。カウンセリングを行うだけでなく自衛官の方々と協力しながら様々な仕事をしていますが、専門家として大切なことを見失わずに働けるのは女学院での学びがあっただけだと実感しています。

将来へとつながる研究ができた大学院



大阪ガスリキッド株式会社
Y・Mさん
2017年 人間科学研究科 修士(人間科学) 取得

高校時代読んだ「海は森の恋人運動」がきっかけで、「環境科学」に興味を持ちました。大学4年生時に海は森の恋人運動発祥地である気仙沼市で取り組む研究のお話をいただき、大学院に進学を決めました。大学院では、東日本大震災で流出した海洋汚染物質の除去に向け仮説を立て、除去材選定・作成、ラボ実験、実地実験、法律に沿った水質の評価まで、時間をかけた研究ができました。卒業後は、会社で採用と環境業務を担当しております。大学院で学んだ知識を活かし、企業活動で排出される産業廃棄物量削減に向け取り組んでいます。

博士前期課程

臨床心理学分野	就職先	<ul style="list-style-type: none"> ■医療 神戸大学病院老年内科/精神神経科病院/精神神経内科/心療内科クリニック ■医療事務 総合病院心療内科/大阪大学精神医学教室/女性診療内科 ■教育 教育委員会子ども支援サポーター/大阪市知的障害児育成会/児童養護施設/公立小学校支援員/大阪市スクールカウンセラー 株式会社 LITALICO/株式会社 ILLUMINATE 発達支援ゆずり子ども相談センター/社会福祉施設/神戸市役所心理判定員 ■福祉 自衛隊/警察本部 ■その他
	進学先	本学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻博士後期課程

人間行動学分野 就職先 情報・通信関係/株式会社 玉造温泉

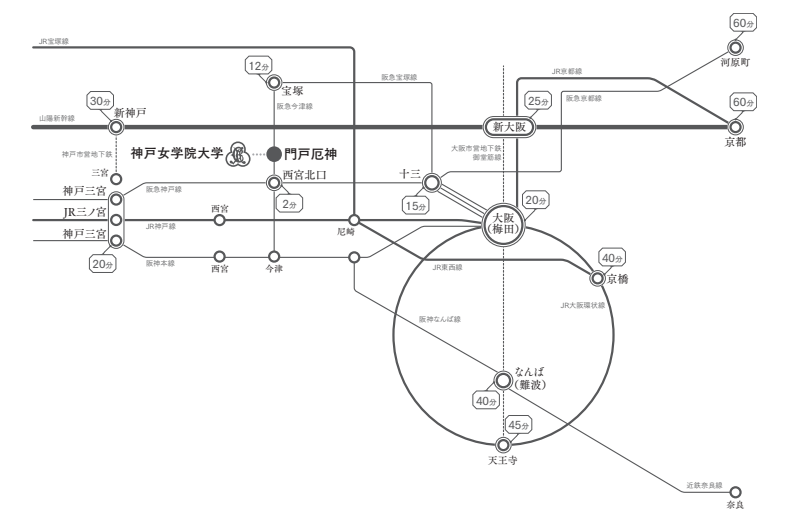
環境科学分野 就職先 本学人間科学部/大阪大学蛋白質研究所/出版社/大阪ガスリキッド株式会社/地方独立行政法人大阪健康安全基盤研究所/プレミアムキッチン株式会社
進学先 本学大学院人間科学研究科人間環境科学専攻博士後期課程/神戸大学大学院農学研究科 博士課程 後期課程

健康科学分野 就職先 本学人間科学部/大阪大学循環器/大阪大学医学部医学研究科/医薬基盤研究所・幹細胞制御プロジェクト/医薬基盤研究所 実験補助
協和発酵バイオ株式会社
進学先 同志社大学大学院/神戸大学大学院農学研究科 博士課程 後期課程

博士後期課程

臨床人間科学 就職先 本学非常勤講師/兵庫県スクールカウンセラー/心療内科/市場調査・ソフトウェア関係

アクセス



大阪・梅田から 約30分
神戸・三宮から 約30分

阪急電鉄神戸線 西宮北口駅で
今津線空堀行きに乗り換え

門戸厄神(もんどやくじん)駅下車 徒歩 約10分



神戸女学院大学大学院

人間科学研究科

〒662-8505 西宮市岡田山4-1
TEL 0798-51-8553 (人間科学部事務室)

www.kobe-c.ac.jp



神戸女学院大学大学院

人間科学研究科

Graduate School of Human Sciences



Guide Book 2021

人間科学専攻 博士前期課程 ● Master's Program

前期課程には、相互に関連した4つの専門分野を置いています。
個々の専門分野の知識や研究技法を実践的に学ぶとともに、相互に有機的関連を保ちつつ教育・研究を展開します。

臨床心理学

専門知識を用いた支援を様々な実習を通して体系的・実践的に学び、教育・医療・福祉・産業・司法矯正等の専門家と協働した在り方を探求。心の本質、人格と発達及び障がい、親密な対人関係の持つ機能、社会への適応等、社会のニーズに応える諸知識を探究。

人間行動学

人間は日常的に様々な判断や行動をとるが、時に非合理的で不適切な場合もある。この基本的特徴を理解するとともに、それによって引き起こされる、教育・産業・交通・医療など様々な領域における問題を考察し、どのような情報化社会・文化を構築していくべきかを探求する。

環境科学

環境問題への認識が高まる中、現状把握と将来予測をするために、人間活動によって大きく影響を受けた環境のみならず、人間の手が比較的人っていない環境、さらには人工的自然や都市近郊の自然などを対象として環境汚染に関する諸問題を中心に教育・研究を行う。

健康科学

健康とは身体的、精神的および社会的に良好な状態とされており、これらはお互いに密接し関連している。本専門分野では複雑に変化する現代社会において、環境や生活習慣、心の問題が人間の体に及ぼす影響を、自然科学や医科学の手法を用いて実証的に研究する。

人間科学専攻 博士後期課程 ● Doctoral Program

後期課程には、臨床人間科学と人間環境科学の2つの専門分野を置いています。
専門知識と研究方法をさらに深化させると同時に、総合的な学問的視点も追求し、各分野での研究者及び指導者を育成します。

臨床人間科学

臨床心理学、社会心理学、認知心理学、発達心理学、精神医学、情報科学等の臨床人間科学の基礎知識を踏まえた上で、現代社会の心理学的課題と心理的援助の在り方を専門的・実践的に研究する。

人間環境科学

生態学、環境科学、生物工学、生命科学などの自然科学の視点から、人間の諸活動による環境変化が生物個体や生態系に及ぼす影響、および生活環境が人の健康に及ぼす影響を研究し、現代における人間と環境との良い関わり方を提言する。

発達臨床心理学研究室

乳幼児関係発達の見解を基礎に、関係性障害や発達障がいの理解、臨床的支援の研究を指導。また思春期・青年期の情緒発達上の問題などへの関係発達論的アプローチを指導する。

家族臨床心理学研究室

院生各自の研究テーマを臨床心理学的観点から調査、実験、事例研究等により探究、分析し、修士論文作成へと指導。専門領域は家族、子育て支援、PCIT(親子相互交渉療法)、ファミリーア、マインドフルネス音楽療法等。

マルチメディア研究室

計算機工学、特にコンピュータグラフィックス、マルチメディアの領域において、実験的研究を進め、個々のテーマに応じて、修士論文の作成に向けて指導していく。

社会心理学研究室

社会心理学や社会的認知心理学の領域で学生がテーマに沿った修士論文の作成を指導。具体的には先行研究・理論を整理して実験計画を立て、データ分析、論文執筆をする助言・指導を行う。

動物生態学研究室

動物生態学、行動生態学、保全生態学の領域で、おもに野外調査にもとづく研究テーマを設定し、修士論文の作成や学会発表に必要な諸技術の指導を行う。

環境科学研究室

環境汚染物質の環境中での動態、生態影響、浄化方法に関して、身近な環境から地球規模まで、広い視野で環境問題を考えられるよう研究テーマを設定。まとめ方、公表の方法を指導する。

応用生命科学研究室

バイオレメディエーション法の検討や、資源の有効活用について検討し、微生物を用いた環境修復研究を行う。また、メタボリックシンドロームの予防研究など動物細胞を用いた糖代謝研究も行う。

健康医学研究室

ストレスへの適応現象を細胞レベルで検討するため、培養細胞に物理化学的なストレスを負荷し、応答を分子レベルで解析。成果は生活習慣病や感染症の予防策、治療法開発につながる。

発達臨床心理学研究室

乳幼児期の関係発達、特に交互作用の観点からの臨床問題の理解と支援をめぐる研究、ナラティブの共同構築過程として見た思春期・青年期の自己形成の研究等を指導し、学会発表等を行う。

動物生態学研究室

陸上の生物間相互作用における生態的な課程に影響を与える人間活動を含むさまざまな要因を明らかにするため、野外調査にもとづいた研究の指導を行う。自立した研究者の育成をめざす。

家族臨床心理学研究室

各自の心理臨床の実践と研究テーマをさらに発展、洗練させ、博士論文に結実させることで、臨床心理学における新たな知見を創出できる優れた臨床実践研究者の育成をめざす。

環境科学研究室

前期課程で得た知見に基づき、自らの力で研究を発展させていけるようサポート。さらに、環境汚染を解明していく過程で得た成果を、社会にどのように還元できるかを指導する。



石谷真一 教授



國吉知子 教授



出口弘 教授



小林知博 教授



遠藤知二 教授



張野宏也 教授



塩見尚史 教授



西田昌司 教授

子ども臨床心理学研究室

院生自身が選んだ研究テーマの理論的研究、調査研究等を行い、修士論文作成を指導。教員自身の研究領域は子どもから思春期、青年期にかけての心理臨床(友人関係、遊戯療法等)。

イメージの心理臨床学研究室

描画や箱庭、夢などイメージにかかわる領域で研究テーマを設定。心理臨床実践はもろろん学際的な思考も通じて探求。精緻し、心理臨床実践へ還元流れて修士論文をまとめる指導を行う。

認知情報処理研究室

知能・情動を含む認知科学の領域において、理論的あるいは工学的な研究テーマを設定し、主に情報科学的な手法での研究を指導。その過程で、研究遂行に必要な技能の習得を目指す。

対人関係心理学研究室

社会心理学、特に対人コミュニケーションと対人関係の研究を指導する。先行研究の整理、研究計画の立案、実験・調査・観察などによるデータ収集、分析・考察、論文執筆の助言と指導を行う。

理科教育研究室

中・高の理科教育に関連する研究テーマ(マイクロスケール実験教材の開発・改良等)を設定。先行研究の調査、研究の推進、修士論文の指導・助言を行い、優れた理科教員の育成をめざす。

植物生態学研究室

植生およびその関連領域(植物生態学、保全生態学など)に関する修士論文を作成する院生に、フィールドワークの進め方、データの解析法、論文の作成等について指導・助言を行う。

食品分子機能科学研究室

タンパク質解析の手法を用いて、食品分子の持つ機能を細胞・タンパク質レベルで明らかにし、食生活と健康の関係を考える。研究計画の合理的な立て方、実証的な研究方法を身につけさせる。

食品基礎科学研究室

食品の持つ構造的な特徴や生理的機能、食品に対する人体の応答性について、実験または調査により解明していく。研究主題の設定、実験、データ整理、統計処理などの研究能力を身につける。

子ども臨床心理学研究室

博士論文作成に向け、理論的(文献)研究、調査研究、事例研究などを通し、各自のテーマを多面的に扱い、臨床実践につながるような研究としてまとめることをめざす。

理科教育研究室

前期課程で得た知見をもとに、理科教育に関わる研究テーマを設定。学会発表、学術論文、博士論文の指導・助言を行い、高度な専門性を備えた理科教員や自立した研究者育成をめざす。

イメージの心理臨床学研究室

修士論文で追求したテーマをさらに深化、取捨させ、博士論文へまとめ上げる作業を指導する。自身の実践と研究とが相互に根ざして一体化している臨床実践研究者の養成をめざす。

植物生態学研究室

植物群落の分布や種組成とその成因、環境との対応など、植生およびその関連領域(植物生態学、保全生態学など)に関する研究を行う大学院生に対して、指導・助言を行う。

社会心理学研究室

自己認知、他者認知、自己・他者・健康行動・ステレオタイプについての潜在的評価研究などのテーマで実証的研究を行う学生の学術雑誌への投稿、博士論文の作成を指導する。

自然環境教育学研究室

前期での研究を基礎とし、「人と環境」について新規性・有用性・独創性の高い論文作成を指導。学生には助言と指導に基づいて、研究者として自立した研究を進めることが求められる。

認知情報処理研究室

心の働きをモデル化に関連する領域において、理論的、工学的、探素的な研究を行う学生を指導。各自が設定したテーマの研究にあたり、問題点の分析・研究方法等を助言・指導する。

健康医学研究室

前期課程での知見をもとに発症率が増加している循環器疾患に着目。動脈硬化、心不全の病態と予防を細胞レベルで検討し、血管壁細胞や心筋細胞の再生による治療法開発を試みる。

精神分析研究室

心理臨床的問題・事象についての院生各自の関心意識をリサーチ・エッセンスに変換し、精神分析学の観点から、それらを考察・深化させる指導を行う。教員の専門領域は、精神分析、被害待見、離婚家庭の子どもの心理援助、自閉スペクトラム症、心理療法プロセス。

認知心理学研究室

認知心理学や教育・発達の領域で、学生の研究テーマに沿った修士論文の作成を指導。既知の事実や理論の整理、課題を明確にし、実験や調査等でデータを集積、分析・考察してまとめる。

認知心理学研究室

認知心理学や教育・発達の領域で、学生の研究テーマに沿った修士論文の作成を指導。既知の事実や理論の整理、課題を明確にし、実験や調査等でデータを集積、分析・考察してまとめる。

自然環境教育学研究室

「人と環境」に関する研究に取り組む学生に修士論文の指導を行う。対象事例やテーマは国内外に広く求め、文献収集、実地調査を通して進める。学会発表や学術雑誌投稿にも助言する。

生態毒性学研究室

化学物質の環境生物に対する影響に関して、室内曝露実験及びフィールド調査で研究。独力で遂行できるよう計画の立案、実験技術、論文執筆、口頭発表の方法等を助言、指導する。

精神医学研究室

精神保健学を中心テーマに掲げて、疫学研究の方法論を修得し、発達障害などの精神疾患と各種要因(遺伝要因、自然環境要因、心理社会的環境要因)の関係を明らかにする研究を行う。学会発表や論文執筆を通して自ら独立して研究を推進する力を養う。

認知心理学研究室

修士論文を発展させた実証的研究を行い、学会に発表、学術雑誌に投稿し、博士論文にまとめる指導を行う。基礎的な研究も応用を念頭に、一般の人にも意義を伝えられる研究を指導する。

食品基礎科学研究室

『食』の多面性、多義性を正確に理解し、人と食品の間わりについて科学的に探求する。自ら考え、実験・調査を遂行し、結果を解析していく研究者として必要な実践力を身につける。

精神分析研究室

臨床心理実践の高度な専門技術を磨き、それらの知見を用いた研究や社会貢献が可能。臨床力と研究力、発信力のバランスが取れた臨床実践研究者を養成する。専門領域は現代精神分析で、児童養護施設、虐待、自閉スペクトラム障害、治療プロセスなどを主題とした研究を行う。



若佐美奈子 准教授



矢野円郁 准教授



三宅志穂 教授



横田弘文 教授



吉益光一 教授